

平成28年度 伊那市立長谷小学校評価表

学校関係者評価；〈A：充分達成された B：ほぼ達成された C：不十分であった〉 自己(項目間相対を加味した到達度)評価；〈a：充分達成された b：ほぼ達成された c：不十分であった〉

学校教育目標		重点目標 (中長期的目標)	総合評価		
本気で取り組む子ども	1 学力面から 「わかり出来る」ことが自信となり、自分で考え、自分から取り組む子どもを育てる。	17 心から取り組む子どもを育てる。 18 心の面から 心の安定が自信となり、自分で考え、自分から取り組む子どもを育てる。 19 体の面から 健康な体が自信となり、自分で考え、自分から取り組む子どもを育てる。	○アンケートからは「学校が楽しい」と思っている児童がほとんどであった。しかし、わずかではあるが、そうは思っていない児童がいることを重く受け止め、子どもにとって安心して過ごせる居場所があり、一人ひとりの児童が活躍できる学校づくりを進めたい。 ○多くの児童が明るく元気に登校でき、気持ちのよい挨拶ができています。重点目標の「自分で考え、自分から取り組む長谷の子」に近づいてきてはいるが、他のアンケート項目に比べるとまだ十分ではない。児童の発想を元に企画運営する児童会活動や、自然や地域の中で学ぶ生活科、総合的な学習の時間の充実をめざし、子どもたちの内からの活動力を育てていきたい。 ○学力向上については、少人数を生かし一人ひとりの考えやつまづきと丁寧に向き合い、指導と評価の一体化をめざした授業、子どもの思いを大切に位置づけた授業づくりが心掛けてきた。また学習問題、学習課題を明確にしながら追究の道筋を明らかにし、子どもたちが主体的に追究できるような授業構成に心がけてきた。毎朝の「読書(10分)」・「姿勢の時間(1分)」・「スキルの時間(10分)」や「基礎学習の時間(週1時間)」(高学年)を継続するとともに、子どもたちと先生がゆったりと話をしたり、一緒に遊んだりするようなゆとりのある時間も大切にしたい。 ○くさぶえ(生活・総合)では「御山で遊ぼう」など地域の自然に触れる活動を行い、教師が子どもたちと共に体ごと学ぶ活動を大切にしてきた。また、「孝行猿の学習」「米作り」等の地域の方々とのふれ合いの中での学習も大切にしてきた。ふるさととの良さを知るとともに、じっくりと地域や自然と向かい合い、仲間と協力することで、豊かな心を培うことができたと思う。これからも地域の方々とのふれ合いを大切に「子どもたちの笑顔あふれる学校」を創りあげていきたい。また、地域の方々を学校にお呼びするだけでなく、子どもたちが積極的に地域へ出て様々な人々と関わる機会を増やしていきたい。		
	今年度の重点目標				
	自分で考え、自分から取り組む長谷の子ども				
			成果と課題	評価	改善策・向上策
			○「自分で考え、自分から取り組む」について児童の自己評価は、他の項目よりやや低めであった。生活科と算数科の授業を中心に、考えを伝え合う学習や子どもが主体的に活動する学習づくりを目指したが子どもの思いや考えをじっくりと受け止めるという教師自身の姿勢や意識変革が大切であることがわかってきた。 ○「御山での活動」や「孝行猿学習」や「アイガモ農法」「地域の人の戦争体験聴き取り」など、子どもたちが切実感を持ち、対象と関わり合いながら本気になって活動に打ち込む姿があった。このような学級の中核的活動を今後とも大切にしていきたい。 ○「縦割りグループの活動(なかよし班)」や「児童会行事」等、6年生が中心となって企画運営をし、全校児童が楽しみながら協力して活動することができた。児童会の活動について、楽しいと感じている児童がとて多い。 ○教師は学校目標達成を目指し、児童や地域の特性を生かした特色ある教育活動を展開しようと工夫してきた。道徳の授業時間が充分確保できなかったと反省する職員が多いが、学校の教育活動全般を通して道徳的価値の自覚、道徳的実践力の育成に努めることができた。	A	○何事にも一生懸命に取り組もうとする子どもたちが多いので、その気持ちを大切にしながら明確な学習問題・学習課題を設定し、子どもの考えを大切に位置づけることで、成就感が得られる学習をめざしていきたい。 ○少人数の利点を生かし、教師が子どもたちの考えや思いをしっかりと受け止めることを大切にするとともに、それぞれの考えをつないで追究を深めたい。 ○地域の自然や人々を活かした特色ある活動を大切にしながら、児童が本気で取り組めるよう、教師自身も材に浸ることを大切にしたい。 ○発達段階に応じて「自分で考え、自分から取り組む」内容を決め出し、家庭・学校で連携を図りながら指導する。 ○道徳の時間の時数を確保し、連学年会での情報交換や職員研修を通して更に子どもたちの心に響くような学習指導の改善をしていく。

領域	対象	評価項目	評価の観点	成果と課題	評価	改善策・向上策
教育活動	教育課程	○学校目標達成に向けての教育課程の展開	○学校目標達成に向けて、「本気で取り組む」ことを意識した計画的な教育課程が展開できたか。	○子どもたち教師共々、運動会や音楽会を始め、各行事等本気になって向かっていく姿が見られた。学級経営計画に目標達成に向けての具体的な取組を明記し、それに向けて見直しをもった取組ができていくが、更に子どもたちと教師が一体となって活動に向かっていかれるようにしたい。	A	○今後も学校教育目標の達成に向け、具体的な重点目標を示し、達成に向けて各学年で計画を立てやすくしていくとともに、職員同士の学び合いの雰囲気や場作りが心掛けていく(来年度は全校研究で「くさぶえ」を共同研究していく)。
		○特色ある教育活動の展開	○児童・学級・学校・長谷(地域)の個性を生かした教育活動の展開ができたか。	○食育(農業体験)、孝行猿集会、アイガモ農法による米作り、ふるさと祭り等、地域とのかかわりを大切にすることで、子どもたちは生き生きと活動することができた。更にこのような本気になる学びの雰囲気を広げることが課題である。	b	○「長谷地域支え合いの会」(長谷学校区コミュニティースクール)との連携を深める中でより長谷の自然、人々に焦点を当てた学習活動を考え、校内での情報交換を大切にしていく。
	学習指導	○学力が定着し向上する「分かる授業」の実践	○主眼を明確にして児童の実態に合った展開を計画し、「分かる授業」を実践することができたか。 ○学力向上に向け、「できた」「分かった」「力がついた」という喜びで満たされた授業ができたか。 ○問題解決的な教育課程の展開ができたか。	○主眼を明確にした授業についての先生たちの意識は高くなってきている。つける力を意識しながら授業の展開を図っているが、児童一人一人に対する指導と評価の更なる一体化が課題である。 ○「わかった」「楽しかった」の成就感のある授業への取り組みとして、ipad等視覚機器を利用した場面提示や資料提示など工夫して取り組む学級が増えてきた。更に日常的に利用できるようにしたい。 ○問題解決学習を意識した授業展開への教師の意識はまだ低い。基礎的基本的な学習の充実に加え、子どもの意識を中心に据えた学習を心がけ、教師と子どもたちが共に創り上げる授業をめざしたい。	A	○重点研究会を中心に、教材研究や児童理解を深めていく。また、子どものことばや思いをつないで追究する授業のよさを教師自身を感じられるよう、授業を見合う機会を設ける。 ○児童主体の授業を展開したい。子どもの考えや思いを教室全体で受け止めることを大切に、自ら考え取り組むことの楽しさを感じられる授業をめざしていく。 ○学習課題を明確にし、個別追究の場の確保とともに、共同追究の場、問題練習など習熟をはかる場を設定していくことを大切にする。
		○児童の良さが生かされ、どの子どもも活躍できる授業の実践	○児童の育ちを見つめ、次の指導に生きる評価ができたか。 ○児童の考え、児童の活動を中心に授業展開できたか。 ○道徳の授業を定期的に行い、豊かな心をはぐくもうとしたか。	○「子どもが授業で活躍するよう工夫している」という点では保護者、児童、教師とも評価が高かった。教師同士が互いの授業を見合うことで刺激し合ってきたが、更に気軽に見合える雰囲気作りを進めたい。 ○少人数の良さを生かし、個々の児童に寄り添った学習指導ができていると考えているが、一人ひとりの考えを大切に授業に位置づけていく努力を今後とも継続したい。 ○道徳の授業時間が十分に取れなかったという反省があった。日常の活動の中で様々な事象を取り上げながら、「いかに生きるか」という視点で、教職員も子どもたちと共に学び合う姿勢でいたい。	b	○教師間で互いの実践を紹介する、授業を見合う学び合いの機会を設け、更に工夫した授業を実践していく。 ○一人の考えを皆で理解し、共有する段階を授業やその他の場で大切にしていく。 ○道徳の授業時間を計画的にとると共に、子どもたちの心に響く教材の発掘や開発をしていく。また、資料道徳と共に、体験活動の中で子どもたちの心の育ちを大切にしていきたい。
	生徒指導	○児童理解に基づいた個々の児童への指導	○児童の気持ちを理解し大切にして、生徒指導にあたったか。 ○生徒指導にかかわる職員間の連携はできていたか。	○児童の気持ちに寄り添った生徒指導を心がけてきた。問題行動等に際しては、担任任せにせず、関係の職員が集まって、チームとして解決へ向けた方策を話し合い、全職員で支援にあたってきた。 ○職員の意識到達度において「生徒指導における連携」については高い。今後も職員間の連携を大切に、より多くの目で子どもたちを見守り支えていきたい。	A	○職員会議や教務会で毎回児童理解の時間を位置づけ、職員間での情報交換と早期対応に心がけ、児童に寄り添い、見守り励ます基本姿勢を大切にいく。 ○引き続き、職員が気軽に語り合える時間、職場の雰囲気づくりを大切に、児童理解及び生徒指導に役立てる。
		○児童の実態に基づいた適応指導	○学校生活全般から児童たちと共に考える適応指導ができたか。 ○不登校やいじめ防止に関わる指導は充分だったか。	○特別支援教育コーディネーターを中心に、教育支援会議を定期や随時に開催し、児童・保護者の気持ちに寄り添ったアドバイスや学校体制の構築を行ってきた。また、子ども相談室やスクールカウンセラーなど外部との連携を積極的に図り、児童に合った支援ができるよう心がけてきた。	a	○児童会・クラブ活動など、複数の職員が児童に関わるような場を設定していく。 ○今後も学級活動の充実とともに、児童の生活アンケートやQ.U.を定期的に行い、不登校やいじめに関わる事象の未然防止、早期発見、迅速な対応に努めたい。
学校運営	安全	○安全の確保	○安全指導がきめ細かになされ学校の安全が確保できたか。	○家庭通知・安心安全メールで自然災害・不審者対策・感染症等について周知を図り安全確保の協力を求めてきた。保育園・小学校・中学校、支所、公民館、駐在が連携して安全対策に取り組み、迅速な児童生徒引き渡しや避難時の協力体制を作った。大型ダンプトラック運転手の「子供みまもり隊」の輪が更に広がり、子どもたちとの交流も行った。地域全体で子どもを見守る体制を更に充実させたい。	A	○災害時、児童の安全確保を最優先するために、安全対策にはきめ細かな気配りを行っていき。現場に立つての安全確認に心がけ、危機管理マニュアルの見直しも定期的に行う。また、月初めの安全点検日の点検を入念に行うようにする。 ○保護者・地域の皆様・保育園・中学校との連携を進めていく。
		○保護者の方の理解	○学級通信や学校新聞により、学校の様子を積極的に知らせたか。	○学級通信、学校新聞等への満足度は高かった。HPの更新に心がけ、学校の様子を紹介を行いたい。	b	○お互いの学級便り等を掲示し見合う中でより保護者をつなぐ内容をめざす。
	地域との連携	○地域の素材・人材の活用	○地域の素材を生かした教材や保護者、地域の人々に参画してもらう授業や活動ができたか。	○「よもぎ採り」「サンハート美和訪問」「孝行猿の発表」「放課後長谷つ子講座」などの活動により、地域の方や高齢者の方々と心の通う交流ができた。また、PTA合唱の練習等を通じて多くの保護者との関わりが生まれ、職員と保護者の距離がとて近づいた。更に保護者と関わる場を充実させたい。	A	○「よもぎ採り」「サンハート美和交流」「孝行猿見学」「放課後長谷つ子講座」の活動は、今後も継続・充実させたい。来年度新たに行う「長谷を考える会」を通して、より地域の中で学校が果たすべき役割について考え合っていきたい。
		○学校の実践課題の地域への発信と協力連携の構築	○学校新聞、行政無線放送等の利用により、地域への発信ができたか。	○月に一度長谷全戸へ配布する学校新聞で日頃の学校の様子を伝えたり、行事に際しては長谷地区防災無線で地域の方々へ参加の呼びかけを行った。	a	○保護者・地域の学校教育・家庭教育への関心は高まっている。学校だけでなく様々な方々と連携して、子どもたちを多くの人々との関わりの中で育てていく。
研修	○校内研究・研修の工夫・改善	○自ら求め研修に励むことができたか。 ○授業公開や研究会・研修会・講習会を通して自らを高めることができたか。	○地域を知り、指導の糧とする目的で、地域研修や講話を実施した。職員が講師となるミニ講座、教材研究研修などを行った。 ○生活科、算数科の学習での子どもとのとらえ方を研究し、子どもと共に創る授業の方向が見えてきた。	B	○地域研修(地域めぐり、講話等)、非違行為防止研修、職員による講座等を継続して行い、職員の資質向上を図っていく。 ○来年度は生活・総合を中心に子どもと共に創り上げる学習を研究していきたい。	

